

# 誰のためのインカレ？

原点回帰するインカレ、学生自身が作り出すインカレへ

インカレロング 2010 奈良大会での競技不成立を受け、再競技が行われることになった。この議論は学生がインカレを強く考える機会になった。



2010年11月21日 奈良県宇陀市  
インカレロング2010会場の体育館にて  
競技不成立の説明が行われた。

## インカレロング 2010 再試合

2010年12月11日、日本学連幹事会が水戸市で開催された。先日行われたインカレロング2010奈良大会で男女の選手権クラスが競技不成立になったことを受け、今後の日本学連の対応を決めることが主たる議題である。

結論はインカレロング2010の再競技を行うということだった。

幹事会では具体的に再競技案が提示され、これを実施するのか、しないのかという議論となった。

再競技日程案：2011年2月5日（土）

この幹事会に先だって、インカレロング2010奈良大会に参加した男女選手権クラス参加者100人に対してアンケートが行われた。

再競技を行ったとき、奈良で不成立になった選手権クラス当時の参加者がどれだけ参加してくれるかということが話題の焦点だったが、アンケートの結果、多くの学生が参加してくれそうだという裏付けが取れた。

再競技を行うと決めた一番大きな理由はこの予想参加率だった。これなら選手権を競い合うに相応しい大会となるだろうと幹事会は判断した。

## インカレに対する熱い思い

幹事会として「再競技実施」結論を出したが、その議論の過程で意見は分かれた。

「あの奈良での11月21日のレースを無かったことにして欲しくない」  
「不成立になってレースを走れなかった選手に、もう一度最高の舞台を提供したい」  
「学生生活最後にインカレロングの順位を決めたい。」  
「1年生に選手権を走る選手を見せたい。」  
「急に再競技を行うことになったことに対して違和感がある。」  
「日程的に参加が難しい」

実はアンケート結果にもいろいろな意見が書かれていた。直接学連幹事にメールや文書などで送られてくる例もあった。そのどれもが、インカレを大きな目標として競技生活を送ってきたことに対する悩みや思いが綴られていた。これらひとつひとつに目を通し、それでも結論を出さなくてはならない学連幹事の苦悩は大きかった。

議論を尽くして、意見をまとめて、学連は再競技実施の結論を出した。この結論に対して全員が納得するわけではない。全員が再競技に来られるわけではない。それも充分承知の上で結論を出した。



インカレロング2009矢板 男子入賞者  
今年度は2011年2月5日（土）まで、笑顔も悔しさも持ちこした。

## インカレとは誰が何のために

いろいろな意見や反論はでたが、行きつくところは「インカレ再競技を本で行いたいのか？」という学生の意思である。

さらにもっと突き詰めて考えると「学生選手権者を決めると言うことはどういうことか？ 誰が何のためにそれを行うのか？」という議論に行き着く。

たまたま幹事会にオブザーバーとして木村も同席していたが、そこまで深く考えた人は実はあまりいないようだった。実はこの部分がブレていては議論がかみ合わない。

今まではインカレが毎年行われていることから、この部分を深く議論することなしにインカレは進んでいた。

ところがインカレロング2010の再競技を考えるにあたり、この根本的な認識に学生たちは向き合うことになった。

## 学生自治のインカレへ回帰

インカレには学生自治で開催という精神がある。これは1984年度に開催された第3回インカレの時に、運営主権を巡って当時の日本学連の前身である学生連絡協議会があらためて主張した内容である。今の学生が生まれていない26年前のできごとだが、その考えは今も日本学連に受け継がれている。

今回の議論を通じて学生幹事の中から「インカレの運営者として参加してみたい。」という意見が出てきた。

そして実際に2011年2月5日（土）に日光で開催されるインカレロング2010再競技大会には、選手権を走らない学生たちが多く運営参加することになっている。

2011年2月に行われる再競技は凶らずも学生主体のインカレに回帰してゆく結果になった。

（木村佳司）

## 日本学連幹事会の説明

日本学連の組織は現役学生で構成される幹事会と、学生OB中心に組織される理事会がある。幹事会は学生の意見がストレートに反映される組織であり、学連意思決定のほとんどを幹事会で行っている。